

特定外来生物 (条件付)

アカミミガメ (ミシシippアカミミガメ)

爬虫綱 カメ目 ヌマガメ科 *Trachemys scripta*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100※

世界の侵略的外来種ワースト 100※

注: アカミミガメには 3 亜種 (ミシシippアカミミガメ、キバラガメ、カンバーランドキミミガメ) があり、いずれも特定外来生物 (条件付特定外来生物) に指定されているが、日本を含め世界各地に導入され定着しているのは、ほとんどがミシシippアカミミガメである。 ※は亜種ミシシippアカミミガメとして指定されている。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

基礎情報

原産地

・アメリカ合衆国南部からメキシコ北東部の国境地帯

現在の分布

- ・ペットとして世界中に出荷されており、世界各地で野生化している。
- ・国内では、北海道から沖縄まで全国各地において野外で個体が見つかる。
- ・県内では三河地方の山間部を除き、河川や池沼に広く定着している。



侵入の経緯

- ・1950 年代後半から幼体を「ミドリガメ」の通称でペットとしてアメリカから輸入。
- ・1990 年代半ばに輸入量は年間 100 万匹であったが、近年は 2 万匹前後と推定。
- ・全国の世帯における飼育数は約 110 万世帯で約 160 万匹と推定 (2019 年)。
- ・野外に生息するものは約 930 万匹と推定 (2019 年の統計解析による)。

形態

- ・最大背甲長はオス 20cm、メス 28cm。メスの体重は 2.5kg で在来のニホンイシガメ (1kg 前後) より大きくなる。
- ・目の後ろ、耳の上に鮮やかな朱色の斑紋があり、喉に黄色の縦縞模様がある。
- ・オスは二次性徴で前肢のツメが伸びる。また、齢をとったオスは黒化して朱色の斑紋や黄色の縦縞模様が消える。



背中側の甲羅 (背甲)



腹側の甲羅 (腹甲)



黒化したオスの顔 (朱色の斑紋が消える)



幼体 (通称ミドリガメ)

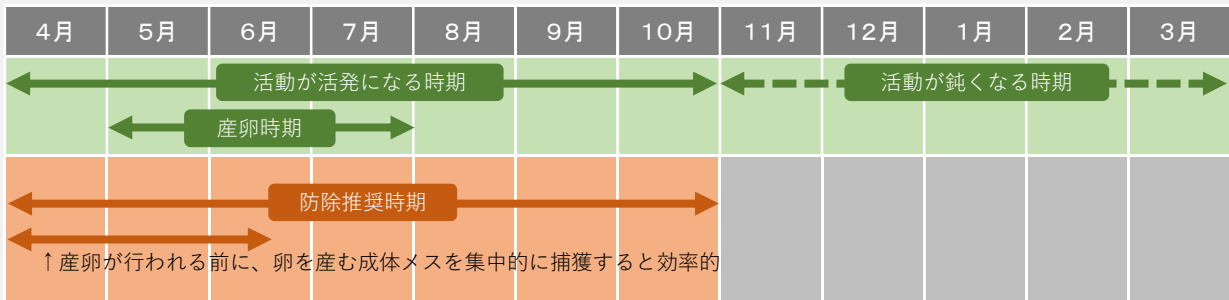
生息環境

- ・河川、湖沼、人工的な池や水路、淡水域から河口の汽水域まで、さまざまな水域に生息する。
- ・水質汚濁にも強く、都市部の汚れた河川にも生息できる。
- ・底質が柔らかい場所や、水生植物が繁茂する場所、緩やかな流れを特に好む。

生態・ライフサイクル

- ・日本の他のカメと同様に雑食性で、魚類、甲殻類、水生昆虫、水草等を食べる。成長が進み高齢になると他のカメよりも草食性が強くなる。
- ・日光浴を好み、岸辺の土や岩、人工構造物の上で甲羅干しをする。
- ・産卵時期は5～7月で、水辺の土手や水辺から離れた畑などの陸地でニホンイシガメよりもやや小さな楕円形の卵を10～20個程産む。
- ・野外での寿命に関する情報はないが、飼育下では40年以上飼われた個体もある。
- ・定住性(同じ場所に留まる性質)が強く、移動距離は半径500m程度(河川下流方向はそれ以上移動する可能性あり)

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・類似種として、ニホンイシガメ、クサガメ、ハナガメ(特定外来生物)がいる。

ニホンイシガメ (在来種)	クサガメ (外来種の可能性あり)	ハナガメ (特定外来生物)
<p>②黄土色 (写真提供:矢部隆氏)</p>  <p>③ギザギザ ①黄土色</p>  <p>④真っ黒</p> <p>①顔は黄土色。 ②背中側の甲羅(背甲)は黄土色。 ③背甲の後部はギザギザになる。 ④腹側の甲羅(腹甲)は真っ黒。</p>	<p>②3本の隆起 (写真提供:矢部隆氏)</p>  <p>③ギザギザなし ①黄色の線</p>  <p>④白い線</p> <p>①横顔から首にかけて黄色の線が入る。 ②背甲に3本の隆起があり、体が黒い。 ③背甲の後部はギザギザにならない。 ④腹甲には白い線が入る。</p>	<p>②1本の目立たない隆起 (写真提供:田原市)</p>  <p>③ギザギザなし ①黒と黄のストライプ</p>  <p>④丸い斑紋</p> <p>①側頭部から首にかけて黒色と黄色の細いストライプ模様が入る。 ②背甲に1本の目立たない隆起がある。 ③背甲の後部はギザギザにならない。 ④腹側の縁甲板に暗褐色の斑紋がある。</p>

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・雑食性のため、捕食により魚類、甲殻類、水生昆虫、水草等、様々な生物に被害を及ぼす。
- ・エサのほか、日光浴・産卵・越冬の場所を奪うことにより、在来種のニホンイシガメ等を駆逐してしまうおそれがある。
- ・成長が進み高齢になると草食性が強くなるため、名古屋市や安城市では植栽した鑑賞用のハスを食べ、消失の一因となっている。県南西部のレンコンの産地でも食害を受けている可能性が高い。また、稲沢市では水田のイネが食べられ、農業被害が顕在化している。
- ・アカミミガメ等の爬虫類を感染源とするサルモネラ感染症の事例が知られている。サルモネラ症とは、サルモネラ菌に汚染された食品を食べることにより食中毒を引き起こす病気で、日本ではカメ類を感染源とする場合が多く、抵抗力が弱い子どもや高齢者が感染している。

生息・被害の確認方法

- ・水際を踏査し、岸辺で日光浴をしている個体や水面に浮かんでいる個体を目視確認する。人が接近すると素早く水中に潜って逃げるため、双眼鏡等を併用するとよい。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



水面に浮かんでいるアカミミガメ

防除方法

- ・飼育個体が野外に放されないよう周知を徹底するとともに、すでに野外に定着している個体は、ワナなどを使って継続的に捕獲する。小さなため池でも防除の効果を確認できるようになるまでには、目安として最低でも2~3年間は捕獲作業を継続する必要がある。
- ・アカミミガメの個体数を減らすことに成功した場所では、ハスやヒシなどの水生植物が再生するなど、アカミミガメが侵入する前の環境が回復してきている事例もある。

推奨時期

- ・水温が上がり活動が活発になる4~10月の防除が推奨される(水温が低い冬はほとんど活動しなくなる)。
- ・産卵が行われる前(春~初夏)に実施すると、卵を産む成体メスを集中的に捕獲できるため、効率的に減らすことができる。

具体的な防除方法

- ・動きが素早いいため、たも網等での捕獲は困難である。
- ・かごワナ、日光浴ワナ(浮島式ワナ)等により捕獲するとよい。在来のカメも捕獲(混獲)されるため注意を要する。
- ・捕獲した個体は引き取り手がない限り殺処理する。殺処理の方法として、冷凍庫での冷凍処理(マイナス20度以下で48時間以上保管する)が多く選択されている。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄(各自治体の基準に従う)、堆肥化などがある。



冷凍庫での冷凍処理

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類


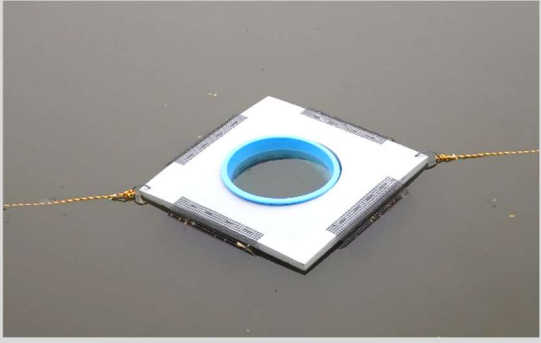
甲殻類

クモ類

貝類

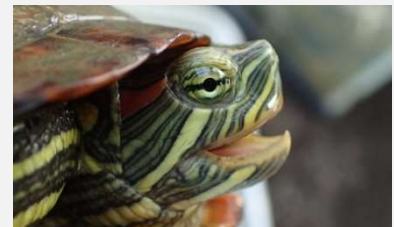
植物

【ワナの種類】

種類	かごワナ	日光浴ワナ(浮島式ワナ)
形状		
概要	エサで誘引。設置・カメの回収は容易。活動が活発な時期(春～秋)に適している。	日光浴する行動習性を利用。カメの回収は容易。長期間の設置が可能。
設置場所	ため池・池沼・流れのゆるい河川	ため池・池沼(流れのないところ)
設置期間	前日に設置し、翌日確認する。 エサ(魚のアラなど)の交換が毎日必要。	1～4週間に1回程度点検する。 エサは不要。
設置・回収の方法	エサ(魚のアラなど)の中に入れ、カメを誘引する。ロープ等で岸に固定する。水に入らなくても1人で設置・回収が可能。	岸近くであれば水に入らなくても設置・回収が可能。ロープを渡せば岸から離れた場所や深い場所でも設置可。
費用	5,000～15,000円程度 受注生産の場合が多い。	写真は軽量型の市販品の例。 材料費20,000円程度で自作も可能。
留意事項	カメが溺れないよう、完全に水没させないように設置する。空のペットボトル等を浮きの代わりにかごワナ内に入れてもよい。	近くに日光浴に適した場所がある場合は、捕獲効率が落ちることがある。場所を変えてよく捕獲できる場所を探すとよい。

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・野外に放したり、逃がしたりすることは禁止されているため、捕獲した個体を逃がさないよう注意が必要。
- ・ニホンイシガメやクサガメとは異なり積極的にかみついため、保護手袋(軍手等)を着用し、頭の近くに手を近づけないようにする。ツメも鋭いため注意が必要。
- ・サルモネラ菌を保菌することが知られており、カメなどの爬虫類を触った後は必ず石けんなどを使って十分に手洗いを。
- ・捕獲したカメは日陰などなるべく涼しい場所に置く。
- ・夏に作業を行う場合は、熱中症予防に対する配慮が必要。



カミソリ状の鋭い口



鋭いツメ(オス)

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 爬虫類 > ミシシippアカミミガメ(国立研究開発法人 国立環境研究所)
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30050.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種問題を考える > 注目の外来種 > アカミミガメ(環境省 自然環境局)
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/akamimi.html>
- ・アカミミガメ防除の手引き(環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室,2021)
- ・はじめてみよう!アカミミガメ防除マニュアル(環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室,2019)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021(愛知県,2021) p.57 ミシシippアカミミガメ(矢部隆)

哺乳類

鳥類

爬虫類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

動物